

一年のまとめの時期です。学年の学習内容が身に付いているか丁寧に振り返りながら指導していきましょう。



～すべての中学校区で「つなぐ教育」を～

《小学校から中学校へつなぐ》

6年生は、あと半月余りで小学校を卒業し、中学校へ進学します。中学校への円滑な接続のために、各中学校区においては小中連携を進め、6年生が不安なく希望を持って進学できるようご努力いただいていることと思います。

学年末、学年始休業中には、中学校区の各小学校で同じ学習課題に取り組みせ、小学校と中学校が連携していくことで、学力向上にも積極的な生徒指導にもつながっていきます。また、6年生に限らず、校内で共通理解を図り、各学年に課題を提供することで、学年と学年をつなぎ、充実した学年末・学年始休業を過ごすことができます。

年度末・年度始休業に向けても、「つなぐ教育」を様々な視点で進め、子ども達を地域（中学校区）全体で見守り、育てていく必要があります。

取組例

- ◆ 家庭・地域の協力を得ながら、中学校区で同一の学習課題に取り組みせ、中学校で振り返りをさせる。（定着確認シートやフォローアップシートも活用できます。）
- ◆ 中学校区の学びの手引き 春休み版を配付して、学年末・学年始休業中の生活習慣・学習習慣の向上につなげる。（PTA や地域の教育関連機関とも連携して）



学力向上グランドデザイン、現職教育計画を確実に引き継ぎ、次年度をスタートさせる！

- ◆ 学力向上グランドデザインに、改善のための指標を設定し、目標の達成状況を可視化し、改善に結びつけることができるようにする。
- ◆ 教師の指導力向上のために、現職教育の計画や研修のあり方を改善する。

定着確認シートを組織的に活用する！

学力向上担当者等研修会の話し合いや記録から、定着確認シートを教育課程に位置付けるなど、多くの学校が、定着確認シートを積極的に活用していることが分かりました。

定着確認シートを組織的に活用するためには、できなかった問題を児童・生徒に身に付けさせることはもちろん大切ですが、それにも増して大切なのは、そのつまずきを繰り返さない指導をするために、教師が授業改善をしていくことです。

つまずきから指導内容を定着させるとともに、授業の何をどのように改善していったらよいか振り返り、組織的に改善するために、以下にその解決のための取組例をあげてみました。また、別紙に、定着確認シートの各学校の様々な活用例を添付いたしましたので、参考にしてください。

取組例

☆つまずきから指導改善に反映させるシステムをつくる。

- ・ 研修計画の手立てとして活用し、改善する。
- ・ つまずきのある教科、学年のフォルダをつくって蓄積し、教科の指導計画、授業に反映させることができるようにする。（小学校）
- ・ つまずきについて、その学年だけでなく、学年の系統性も考慮して各学年で指導法を改善するための研修を行う。
- ・ 定着確認シートを使った授業研究を校内研修の中に設定する。

第6回の定着確認

シート掲載中です！

今回の定着確認シートは、県学力調査の結果を踏まえて作成されています。また、以下のような補強問題も通常の問題の後に掲載されています。

★小学校5年生 理科

〈確かめよう〉

- ・ 植物の発芽
- ・ 植物の発芽と成長
- ・ 物の体積と温度

★中学校2年生 数学

〈できるかな〉

- ・ 関数
- ・ 資料のちらばりと代表値

